

超音波ガイド下肝生検(腫瘍生検)に関する説明書

神戸市立医療センター 中央市民病院 消化器内科(25/09)

1. 病名・症状 [急性肝炎]

2. 検査予定日時 [平成 29年 02月 15日]

3. 検査の目的

この検査は、肝臓の組織を専用の細い針で採取し、それを顕微鏡で詳しく観察することで、肝臓の病気の状態や原因を調べるために行います。

具体的には、慢性C型肝炎のインターフェロン治療前、B型肝炎の増悪期、自己免疫性肝炎、薬剤性肝障害などの病態の把握や、原因不明の肝障害の診断などのためには、必須の検査です。また、肝臓に画像検査で腫瘍が疑われる結節が認められた場合、その結節の性質(良性か悪性か、腫瘍か炎症か)を調べるためにも行います。

4. 検査の方法

持続点滴したうえで、検査は3階の「内視鏡センター」で行います。肝臓を超音波(エコー)で十分観察し、針を穿刺する場所を決定したうえ、その場所を消毒・麻酔します。

その後、再度エコーで観察しながら、肝臓(もしくは腫瘍)を専用の針で穿刺し、組織を採取します。その間息を止めてもらいますが、処置はごく短時間(10~30秒)で終わります。採取した肝組織は病理診断に提出し、数日後に結果がでます。検査後は、通常数時間程度病室のベッドの上で安静にしてもらい、腹痛などがなければ自由に歩いてもらいます。

また、抗凝固薬(ワーファリン)、抗血小板薬(バナルジン・バイアスピリン・プレタール・プラビックスなど)を内服している方は、治療前後1週間程度は内服を中止する必要がありますので、お申し出ください。

5. 検査に伴う危険性と合併症

一般的な副作用として、穿刺部の痛みや軽度の発熱がありますが、時間とともに軽快します。

まれな合併症として、穿刺部からの出血があります。報告では0.2~0.6%に上られ、ほとんどの場合は安静と止血剤などの点滴で止血しますが、まれには輸血を必要としたり、開腹して止血処置が必要になる場合もあります。

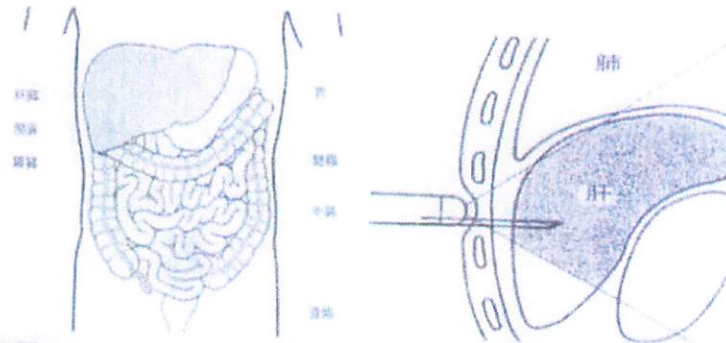
その他の合併症として、気胸や他臓器損傷の可能性もまれながらあります。



検査には細心の注意を払いながらおこないますが、万一偶発症が生じた場合も外科手術を含めて最善の処置をいたします。

6. その他

検査や手術などの治療を行う中で合併症が発生した場合には、医師は最善と思われる処置を迅速に講じます。しかし、その場合の費用（追加診療費）は通常の診療と同様に保険診療となります。



7. 予想外の緊急時の処置について

予想外の突発的な緊急事態が発生し、しかも説明する時間的余裕のない場合には、救命のため上記に記載のない緊急処置をおこなうことがあります。

超音波ガイド下肝生検（腫瘍生検）に関する同意書

私が文書と口頭で説明を行いました。

説明日：平成29年02月14日



私は、今回の「超音波ガイド下肝生検（腫瘍生検）」の目的・方法・危険性に関し医師より説明を受け、理解し、納得しましたので、その実施に同意します。

また、上記手術・検査の影響で追加治療の必要が生じた時は、外科的治療を含めて必要な治療を受けることに同意します。

同意日 平成29年 2月 15日

本人署名（自筆）



本人が説明を理解できない場合、代理人による同意が必要となる。

代諾者署名



神戸市立医療センター 中央市民病院



超音波ガイド下肝生検(腫瘍生検)に関する説明書

神戸市立医療センター 中央市民病院 消化器内科(25.09)

1. 病名・症状 [肝障害]

2. 検査予定日時 [令和 2 年 10 月 2 日 時 ~]

3. 検査の目的

この検査は、肝臓の組織を専用の細い針で採取し、それを顕微鏡で詳しく観察することで、肝臓の病気の状態や原因を調べるために行います。

具体的には、慢性C型肝炎のインターフェロン治療前、B型肝炎の増悪期、自己免疫性肝炎、薬剤性肝障害などの病態の把握や、原因不明の肝障害の診断などのためには、必須の検査です。また、肝臓に画像検査で腫瘍が疑われる結節が認められた場合、その結節の性質(良性か悪性か、腫瘍か炎症か)を調べるためにも行います。

4. 検査の方法

持続点滴したうえで、検査は1階の「内視鏡センター」で行います。肝臓を超音波(エコー)で十分観察し、針を穿刺する場所を決定したうえで、その場所を消毒・麻酔します。

その後、再度エコーで観察しながら、肝臓(もしくは腫瘍)を専用の針で穿刺し、組織を採取します。その間息を止めてもらいますが、処置はごく短時間(10~30秒)で終わります。採取した肝組織は病理診断に提出し、数日後に結果がでます。検査後は、通常数時間程度病室のベッドの上で安静にしてもらい、腹痛などがなければ自由に歩いてもらいます。

また、抗凝固薬(ワーファリン)、抗血小板薬(パナルジン・バイアスピリン・プレタール・プラビックスなど)を内服している方は、治療前後1週間程度は内服を中止する必要がありますので、お申し出ください。

5. 検査に伴う危険性と偶発症

一般的な副作用として、穿刺部の痛みや軽度の発熱がありますが、時間とともに軽快します。

まれな偶発症として、穿刺部からの出血があります。報告では0.2~0.6%にみられ、ほとんどの場合は安静と止血剤などの点滴で止血しますが、まれには輸血を必要としたり、開腹して止血処置が必要になる場合もあります。

その他の偶発症として、気胸や他臓器損傷の可能性もまれながらあります。

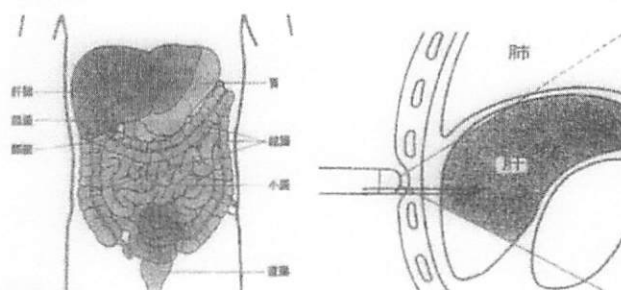


536941KR04AC1650497201502-02008210954320101

検査には細心の注意を払いながらおこないますが、万一偶発症が生じた場合も外科手術を含めて最善の処置をいたします。

6. その他

検査や手術などの治療を行う中で偶発症が発生した場合には、医師は最善と思われる処置を迅速に講じます。しかし、その場合の費用（追加診療費）は通常の診療と同様に保険診療となります。



7. 予想外の緊急時の処置について

予想外の突発的な緊急事態が発生し、しかも説明する時間的余裕のない場合には、救命のため上記に記載のない緊急処置をおこなうことがあります。

超音波ガイド下肝生検（腫瘍生検）に関する同意書

私が文書と口頭で説明を行いました。

説明日：令和02年08月21日

私は、今回の「超音波ガイド下肝生検（腫瘍生検）」の目的・方法・危険性に関し医師より説明を受け、理解し、納得しましたので、その実施に同意します。

また、上記手術・検査の影響で追加治療の必要が生じた時は、外科的治療を含めて必要な治療を受けることに同意します。

同意日：令和 2 年 8 月 21 日

本人署名（自筆）

本人が説明を理解できない場合（子ども、意識障害がある など）



代諾者署名

（続柄）